

事業所名

多機能型事業所 はあくみ～ききょうの(ふわり)

支援プログラム

作成日

2025年

4月

1日

法人（事業所）理念	安全に十分配慮し、お子さまが笑顔でのびのびと学んで過ごせる空間の提供をします。社会参加をするうえで必要となる知識・ルール・マナーを習得するためのお手伝いをします。おひとりおひとりの「らしさ」を大切にし、それぞれにあった療育を目指します。					
支援方針	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さまの発達段階に沿った個別の関わりを大切にしています。 ・お子さまが伸び伸びと持っている力を発揮し、自分で考え発信していく力につながる取り組みを行います。 ・「楽しんで取り組む」ことで自然と「できた！」が増えていくような関わりを目指しています。 ・ご家族の気持ちや思いに寄り添いながらサービスの幅を広げていきます。 					
営業時間	9時	00分	17時30分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	来所後すぐに健康状態を把握し、健康の増進（病気への予防や安全への配慮）を行います。基本的な生活スキル（挨拶・姿勢の保持・排泄・衣服の着脱・食事等）の習得を目指して個別の支援、環境設定を行います。外遊びや集団遊びを通して、適度に体を動かすことで健康の増進につなげていきます。一人ひとりに合った身体的、精神的、社会的訓練を行います。				
	運動・感覚	感覚の特性に対して個別に配慮を行いながら、遊びや活動を通して様々な体の感覚の成長を促していきます。感覚総合につながるよう、歩く、走る、跳ぶ、回る、揺れる、触れ合う、昇り降り等の感覚遊びを多く取り入れます。見る、聞く力につながるよう、活動の中に共同注視や模倣の場面を多く設定しています。楽しみながら取り組むことで、集中して取り組む力につなげていきます。				
	認知・行動	挨拶の時間に日付けや時間の確認を視覚的な掲示と共に行い、時間や数・形の大きさ・重さ・色の違いなどの概念形成につなげていきます。情緒の安定や場面に沿った適切な行動の選択につながるよう、選択肢の掲示を行い自分で考え行動できる力につなげていきます。認知の偏りが無いように、場面に沿った個別の対応を大切に組み込んでいきます。				
	言語コミュニケーション	他者との相互作用を通して困り感のある時には、要求や応答など場面に沿った言葉で他者に気持ちを伝えることができるよう個別に取り組みを行います。発信できる方法や言葉（指差しやジェスチャー、絵カードや感情カード等も含め）が増えていくよう、発信を丁寧にすくい取り応答していくやり取りを重ね、気持ちを伝える手段を獲得していきます。一人ひとりの特性に応じた読み書き能力の向上のために支援をしていきます。				
	人間関係社会性	発達の状態を把握しながら、安心できる他者とのアタッチメント（愛着行動）の機会を設定していきます。他者との関わりが楽しいと思えるよう、発信を受け止め十分に気持ちをくみ取ることが大切に行います。自分の感情のコントロールに気づくことができるよう、感情にぴったりとあてはまる言葉があることを関わりの中で反復して伝えていきます。一人遊びから、他者との共同あそびや楽しい関わりにつながるよう、ルールやお約束、関わり方を提案していきます。				
家族支援	家族からの相談に対して、特にきょうだい児への支援の必要性など、話をじっくり聞くことを大切にしています。適切な助言や提案ができるよう、職員の資質の向上に取り組んでいます。毎日の連絡票を活用し、お子さまの発達に対する不安や課題の聞き取りを行います。	移行支援	認定こども園、幼稚園や保育園へ訪問を行い、課題や取り組みに対する情報の共有、受け入れの体制に対する方法の提案を行います。家族の方に対して、移行先に対する情報の提供や移行先での合理的配慮等の環境の調整の提案を行います。			
地域支援・地域連携	保育所等訪問支援を行っています。適切な支援につながるよう、必要に応じて医療機関、児童相談所、保育教育機関等の専門機関との連携を行っています。	職員の質の向上	定期的に職場内研修、職場外研修に参加しています。発達の段階に沿った適切な対応や関わりにつながるよう、毎日振り返りの時間を設定し意見交換を行っています。			
主な行事等	季節に応じた活動の内容を設定しています。毎月、きりんタイム（小集団の関わり）・避難訓練・誕生会を設け交流を楽しんでいます。					